

SCHEDULE

映画祭 移民とわたしたち 上映日程 ★上映後トーク

日	10:30~12:03	12:30~14:59	16:00~17:44	18:40~20:08
2(土)	ル・アーヴルの靴みがき DCP	スワロウテイル	レ・ミゼラブル ★古賀太 (日本大学芸術学部映画学科教授)	海辺の彼女たち ★藤元明緒監督
3(日)	からゆきさん ★嶽本新奈さん (お茶の水女子大学 ジェンダー研究所 特任講師)	サウダーチ	月はどっちに出ている ★李鳳宇さん (プロデューサー)	東京クルド ★日向史有監督
4(月)	山河あり	イゴールの約束	海は燃えている ～イタリア最南端の小さな島～	かぞくのくに ★ヤンヨンヒ監督
5(火)	女衛	レ・ミゼラブル	海辺の彼女たち	バンクーバーの朝日
6(水)	イゴールの約束	バンクーバーの朝日	東京クルド	山河あり ★志村三代子 (日本大学芸術学部映画学科教授)
7(木)	海は燃えている ～イタリア最南端の小さな島～	女衛	からゆきさん	サウダーチ ★富田克也監督 ★相澤虎之助さん (脚本)
8(金)	月はどっちに出ている	かぞくのくに	ル・アーヴルの靴みがき 35mm	スワロウテイル

サヘル・ローズ 俳優/コメンテーター

多様性という繊維、SDGsというファッション。人間は作り物ではない。人間は着飾るための駒でもない。本質がずれてつる社会で、映画がもつ可能性を噛みしめてほしい。無関心化が進む現代社会では共存も調和も生まれない。映画は100年先まで残る大事な歴史の記録。生きた証言の行動が止む前に、記録として残していく遺産。いいことも、悪いことも、不都合な真実も、すべて、暴ける。それが映画の魔法です。知らなかった世界を覗きながら、当事者たちの言葉と映画の息吹きを感じてほしい。明日はアナタが彼等の立場になるかもしれないから。

田原総一郎 ジャーナリスト

日本に留学生として、或いは働くために入国している外国人たちに、日本の政治は与野党共に冷酷で、外国人を差別している。例えば、2021年にスリランカ国籍のウイシュマさんが出入国在留管理局に収容されている時に死亡した事件が記憶に新しい。この出来事は、発覚当時から大問題として多くのメディアが報じたが、外国人差別の状況は今もあまり変わっていない。映画を通して、移民や外国人について考える機会をもっとほしい。

望月衣塑子 東京新聞記者

30回にわたり点滴や入院治療を求め続けたスリランカ人女性ウイシュマさんは、1本の点滴も打たれることなく見殺しにされた。あの非情な死亡事件で、どれだけ人権意識が欠如した国なのか、みな知ったはずだった。しかし事件から2年後、難民申請を原則2回目までとする改憲法が国会で成立。難民認定率1%以下の日本で今後、さらに多くの外国人が命の危険に晒されようとしている。このような不条理が続いている現状を私たちは許していいのか。

安田菜津紀 認定NPO法人Dialogue for People代表

私たちの社会はすでに多様だ。けれどもマイノリティの姿は、時にステレオタイプ的に、時に悪意の対象として、また時に過度に美化され、表象されてきた。大切なのは各映画を通して、それが「なぜ」なのかを考えることではないだろうか。



彼らの声は聴こえている？

IMMIGRANTS AND US



開催期間 2023年 12.2(土) ~ 12.8(金)



東京都渋谷区円山町1-5 KINOHASU 3F 渋谷駅下車・Bunkamura交差点左折

前売券 | 1回券: ¥1,000 (一般・学生ともに) / 3回券: ¥2,400 (一般・学生ともに)
当日券 | 1回券: 一般 ¥1,400 学生・会員・シニア ¥1,100 / 3回券: ¥3,000
すべて税込 / 各回入替制・全席指定席

- 開場はそれぞれ上映開始10~15分前です
- 各曜日の最初の上映開始30分前より、その日の座席指定券と引き替え/当日券の販売を開始します
- 劇場窓口では3日前から座席指定券が購入できます
- ユーロスペース劇場HPでは3日前~各回開始1時間前まで座席指定券が購入できます(各種クレジットカードのみ。詳しくはユーロスペース劇場HPをご確認ください)
- オンライン予約は自動発券機で座席指定券をお受け取りください。上映時間直前は混雑が予想されます。お早めにお引き換えください。
- 前売券は3日前より劇場窓口にて座席指定券とお引き換えできます。オンラインでのご利用はできません。
- やむを得ない事情により作品、上映素材、及び上映時間が変更になる場合がございます
- 製作から長い月日が経っているため、お見苦しい箇所やお聞き苦しい箇所がございます
- トークショーのある上映回は予告編の上映はございません
- トークショーは変更・中止となる場合がございます

開催期間 2023年

12.2(土) ~ 12.8(金)

主催: 日本大学芸術学部映画学科映像表現・理論コース3年「映画ビジネスIV」ゼミ/ユーロスペース
上映協力: 空族/国立映画アーカイブ/松竹/スターサンズ/東映/東風/東宝/東北新社/ビターズ・エンド/マンシーズエンターテインメント/ユーロスペース/E.x.N/KADOKAWA/STAR CHANNEL MOVIES/The Finnish Film Foundation/The Match Factory

× https://twitter.com/nua_eigasai2023/
f <https://www.facebook.com/nichigei.eigasai/>
@ https://instagram.com/nua_eigasai2023/
<http://nichigei-eigasai.com/>



AMMIGDANTS

今年で13回目となる日芸映画祭のテーマは「移民とわたしたち」。

日本は1980年代から「外国人労働者」を受け入れ始め、2022年末には400万を超える外国人が在留カードを持って住む「移民大国」となった。このテーマにしたのは、2021年3月に起こった名古屋出入国在留管理局に収容されたウイシユマさんの死亡事件をきっかけに、渋谷や国会議事堂前で入管法改正案の反対のデモや集会が行われていたからだ。また、テーマを決めた直後の6月9日には国会で改正入管法が成立、外国人労働者拡大の閣議決定もされた。これらの一連の動向は私たちにとって極めて重要な問題である。

「移民」と一言で片付けられる言葉の背景には、どのような苦悩や苦痛があるのか。本映画祭では日本における移民を扱った作品と共に、日本人が移民として外国へ渡った作品、移民先進国の海外の監督が移民や難民を描いた映画も加えており、日本、そして世界の移民問題について考える映画祭になった。

「在日外国人」を言及する上で欠かせない在日コリアンについて、崔洋一監督の『月はどっちに出ている』とヤンヨンヒ監督の『かぞくのくに』を上映する。松山善三監督の『山河あり』と、石井裕也監督の『バンクーバーの朝日』は、日本人移民の外国での生き方を見ることができる。また、木村莊十二監督の『からゆきさん』や藤元明緒監督の『海辺の彼女たち』は、女性移民の苦しい境遇を捉えている。アキ・カウリスマキ監督の『ル・アーヴルの靴みがき』は、移民問題と共にカウリスマキ特有のヒューマニズムにも触れられる。

今年度のテーマの発案者で代表は中国人留学生、ゼミメンバーには在日コリアンもいる中で、我々は「移民」について考えさせられると共にレベルの高い作品を選出した。20世紀は「映像の世紀」と言われるが、同時に現在まで続く「移民の世紀」だったと、作品の選考を終えた今、痛感している。今回の映画祭を通じて、新たな視点を得ると共に、自分と異なる文化的背景を持つ人たちに理解のまなざしを向けて欲しい。

生きていく場所で



からゆきさん

大正初期、亡きオランダ人の夫との子連れ、長崎の波無村に帰郷したおゆき。彼女はかつて貧しさから「からゆきさん」としてシンガポールに渡った。差別と偏見がはびこる村で母子の居場所はどこにあるのか。帰国してからもいじめられる「からゆきさん」たちの苦悩が浮かび上がる。主演女優入江たか子が自ら製作に参加した、国立映画アーカイブが所蔵する貴重な一作。(一部聞き取りにくい部分がございます)

木村莊十二/1937年/日本/59分/35mm/白黒
配給:東宝/所蔵:国立映画アーカイブ



山河あり

田村高廣と高峰秀子演じるハワイ移民夫婦の苦闘物語。大正7年、日本からハワイへと移住した日本人たちは、日本に帰ることができず、ハワイでの労働を強いられた。思い通りの生活を手に入れられた頃、日本とアメリカの戦争に巻き込まれ、彼らの子供達はアメリカ軍に加わってしまう。2つの祖国を持つ人々の苦悩を描き、戦火で引き裂かれた人々の切実な思いを描いている。当時、高峰秀子が衣装監督を務めたことでも話題となった。

松山善三/1962年/日本/127分/35mm/白黒/配給:松竹



月はどっちに出ている

梁石日の小説「タクシー狂操曲」を、奇才崔洋一が監督。タクシー運転手として働く在日朝鮮人2世・姜忠男は、出稼ぎフィリピン人・コニーに恋をする。2人の恋愛劇を軸に、在日外国人の日常や「儲かりまっか」「ぼちぼちでんな」といった登場人物の関西弁の会話をコミカルに映しながらも、人種差別や日本の抱える問題を描いている。第67回「キネマ旬報」ベスト・テン第1位、第36回ブルーリボン賞作品賞ほかその年の映画賞を総なめ。

崔洋一/1993年/日本/35mm+DCP/109分
配給:シネカノン・マンシイズエンターテインメント



スワロウテイル

円が世界で一番強かった時代、日本の「円都」(エン・タウン)に渡ってきた移民達を描いた作品。架空の世界の物語だが、日本人から「円盗」(エン・タウン)と呼ばれる移民たちから発せられる言葉の数々、そして映し出される世界は今では架空ではなく現実になりつつある。入管法などに揺れ動く現在の日本の姿と重なり、故郷とは何か、外国人とは何かを考えさせる。第20回日本アカデミー賞5部門ノミネート。

岩井俊二/1996年/日本/35mm+BLU-RAY/149分
配給:日本ヘラルド映画・エースピクチャーズ・KADOKAWA



女衞

明治後期、祖国のため香港、韓国、マレーシアと東南アジアで女郎屋を開いた村岡伊平治の半生を巨匠・今村昌平が描いた作品。目まぐるしく移り変わる時代の中、国のために異国で女郎屋を開き女衞となった男の生き方と、もがきながらも逞しく生きる女性たちの姿、そして当時の日本の裏側をリアルかつコミカルに描いている。緒形拳が主人公・伊平治役を、その妻役を倍賞美津子が熱演。第40回カンヌ国際映画祭コンペ出品。

今村昌平/1987年/日本/124分/35mm/配給:東映 (R-15)



イゴールの約束

不法移民が集まるアパートで暮らしている人々と少年イゴールの物語。アパートの管理人である父親の手伝いをするイゴールが、ある事をきっかけに一つの約束を交わす。違法外国人労働者がどのようにして生きているのかがドキュメンタリータッチで描かれている。イゴールはどのようにして約束と向き合うのか、目を背けたくなる物語を最後まで見届けて欲しい。今や巨匠となったダルデンヌ兄弟の長編3作目で、第49回カンヌ国際映画祭「監督週間」に選出され国際芸術映画評論連盟賞を受賞。

ジャン・ピエール&リュック・ダルデンヌ/1997年/ベルギー・フランス・ルクセンブルク・チェコニア/35mm/93分/配給:ピタース・エンド



かぞくのくに

在日コリアン2世のヤンヨンヒ監督が自らの体験を基に「帰国事業」に翻弄される在日朝鮮人家族を描く。大阪から「理想郷」北朝鮮へ渡ったソンホ(井浦新)は、病氣療養のため3ヶ月だけ故郷に暮らす妹リエ(安藤さくら)ら家族のもとへ帰国する。25年ぶりに帰ってきたソンホには四六時中「国」の監視がついており、家族や友人らと本心から打ち解けることなく時間は進んでいく…。「キネマ旬報」ベストテン1位、ベルリン国際映画祭 C, I.C.A.E賞。

ヤンヨンヒ/2012年/日本/DCP/100分/配給:スターサズ



東京クルド

日本で生きるクルド人青年2人を5年以上にわたって取材し、難民に対する日本の現状を映し出したドキュメンタリー。難民認定率が1%にも満たない日本で生きる2人は仮放免許可証を持つが、許されているのは「ただ、いること」。いつ入管に収容されるか分からない不安を常に感じながらも2人は日本で夢を描く。改正入管法が可決された今、彼らはどうなるのか。第39回日本映画復興奨励賞受賞、韓国・第23回全州国際映画祭審査員特別賞受賞。

日向史有/2021年/日本/DCP/103分/配給:東風



ル・アーヴルの靴みがき

フィンランドの巨匠、アキ・カウリスマキによる「難民三部作」の第1作目。北フランスの港町ル・アーヴルを舞台にヨーロッパにおける深刻な難民・移民問題を扱っている。不法移民のアフリカの少年と彼を匿う老夫婦を中心に、庶民の人情と優しさが溢れる奇跡を描いたヒューマンドラマ。第64回カンヌ国際映画祭国際批評連盟賞受賞。日本での上映権が切れているため、ドイツの権利元と交渉し特別に上映が実現。35mmフィルムとDCP2種類での上映。

アキ・カウリスマキ/2011年/フィンランド・フランス・ドイツ/35mm+DCP 93分/協力:The Finnish Film Foundation, The Match Factory



バンクーバーの朝日

戦前のカナダで活躍した日系移民の野球チーム「バンクーバー朝日」の実話を基にした作品。20世紀初頭、多くの日本人が新たな生活を求めてカナダへ渡ったが、そこで待っていたのは厳しい労働環境や人種差別、日系1世と2世の対立であった。そんな日々がバンクーバー朝日軍の活躍により徐々に変わっていくが、時代は第二次世界大戦へと進んでいく…。妻夫木聡が主演、亀梨和也、池松壮亮、高畑充希、佐藤浩市ら出演。

石井裕也/2014年/日本/DCP/132分/配給:東宝



レ・ミゼラブル

舞台はヴィクトル・ユゴーの「レ・ミゼラブル」で知られているモンフェルメイユ。現在は犯罪多発地区の一部とされている。そこで生きる権力者によって抑圧されている弱者と社会で居場所を失った人々。まさに、「ミゼラブル(悲惨)」な世界の現状を反映しているといえる。監督・脚本はフランスの新鋭ラジ・リ。モンフェルメイユで生まれ育ち、現在もその地に暮らす監督自身の体験を基に、現代社会に潜む問題を圧倒的な緊迫感とスタイリッシュな映像で見事に描く。第72回カンヌ国際映画祭審査員賞受賞。

ラジ・リ/2019年/フランス/DCP/104分/
配給:東北新社、STAR CHANNEL MOVIES



サウダーチ

移民、派遣労働、そしてヒップホップと、不況のなか懸命に生きる日系ブラジル人やタイ人をはじめとする外国人労働者たちを描いた作品。日本人ラッパーの猛は日系ブラジル人ヒップホップグループと対立してやりきれない衝動を抱える。一方、精司はタイ人のホステスにはまりタイで暮らすことを夢みる。移民を巡る様々な思いが甲府の街で交錯する。映像制作集団「空族」の名を一躍世界に轟かせた衝撃作。第33回ナント三大陸映画祭にてグランプリ「金の気球賞」受賞。

富田克也/2011年/日本/167分/35mm/配給:空族



海は燃えている ~イタリア最南端の小さな島~

ドキュメンタリー映画の名匠、ジャンフランコ・ロージが欧州に流れ着くアフリカ移民を描く。イタリア最南端に位置する人口5500人の小さな島、ランペドゥーサ島には年間5万人の移民、難民が流れ着く。島に住む少年サムエレにとってそこは楽しい日常生活を送る故郷だが、難民の世話をする島で唯一の医師にかかったのをきっかけに、必死に生きる彼らを見ることになる。第66回ベルリン国際映画祭金熊賞。

ジャンフランコ・ロージ/2016年/イタリア・フランス/DCP/114分/
配給:ピタース・エンド



海辺の彼女たち

近年、外国人技能実習生の劣悪な労働環境が社会問題として注目されている中、藤元監督が実際に技能実習生から受け取ったSOSメールをきっかけに着想した作品。技能実習生として夢を抱いて日本へ出稼ぎにやって来たベトナム女性たちの姿を描く本作は、ドキュメンタリーとフィクションを越境する圧巻のリアリズムで、この物語が現実問題の一端であること、決して他人事ではないことを考えさせられる。第68回サンセバスチャン国際映画祭新人監督部門出品ほか。

藤元明緒/2021年/日本/DCP/88分/配給:E.x.N